多高通信

第150号 平成30年1月29日発行

さとく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

お掃除・こども交流会
復興住宅ボランティア

12月2日・3日および9日・10日の計4日間、ボランティアの課題研究チーム6名が多賀城市鶴ヶ谷公営住宅において一人暮らしの高齢者宅に伺い、主に窓拭きなどのお掃除ボランティアを行いました。6人は約1ヶ月前から「お掃除お手伝いします」といったチラシを配布するなどの準備を進め、10軒のお宅から希望があり、活動しました。窓拭きをしてもらった住民の方からは「明日お客さんが来るので助かりました」「大きな窓は手が届かないから助かりました」「また来年もお願いしたいです」などといった言葉をかけていただきました。参加した生徒達は、高齢者の方々にとっては、仮設住宅から復興住宅に移ったこれからが、最も支援が必要になるということを、身にしみて感じていました。

窓ふきボランティア

また、12月2日に1年生のボランティア課題研究チームの6名が、多賀城市鶴ヶ谷復興住宅の集会所をお借りして、「みんなで 食べよう遊ぼうおしゃべりしよう！」と銘打ったこども交流会を開催しました。復興住宅のこども達とその近隣の鶴ヶ谷地区のこども達との交流を深めたいという考えで、チラシや回覧板で周知をしました。当日は小学生を中心に14名の子どもたちが集まり、ドッチボールや鬼ごっこなどをしたあと、みんなでホットケーキを作りました。初めて会う友達ともすぐ仲良くなり、交流会は大成功でした。生徒たちは、復興住宅のこども達に自分たちは何ができるか？という課題を設定し、数ヶ月前から準備を進めました。「参加者が誰も来なかったらどうしよう」などの不安があった中、交流会に参加したこども達から「ありがとう！」と声をかけられ、企画した生徒達にとって大きな充実感を得ることができた交流会となりました。

こども交流会

■1年1組 梅津千聖（南小泉中出身）

環境美化をテーマに行っている課題研究の一環として、一人暮らしの高齢者が手の届きにくく掃除しにくい窓掃除などのお手伝いをしました。少ない人数でたくさんのお宅を回ったのでとても疲れましたが、高齢者の方々との交流を通したくさんのことを学ぶことができました。

ボランティア活動を終えて、次に向けての反省点や改善点が見えてきたので、友人や後輩に引き継いでより充実した活動になっていくようにしていきたいです。

■1年3組 昆野小春（高崎中出身）

「震災後に遊ぶ場所が少なくなった子どもたちに遊び場の提供をし、他の人たちとの交流を楽しんでもらう」ことをコンセプトに、課題研究でボランティア活動をしました。自治会の方々のお話では、過去に大学生の方々が行った勉強会には子供たちが2人しか集まらなかったと聞いていたので、子どもたちが集まらなかったり失敗したらどうしようと不安になったりしてしまいました。しかし、当日は14人の子供たちが集まってくれて、子どもたちから「楽しかった」「また来てね」などの言葉をかけてもらったり、子どもたちが笑顔で帰っていく姿を見てうれしくなりました。機会があればまたボランティアに取り組んでみたいです。

語学研究部
たがさぽのクリスマス雑貨市

12月10日、多賀城市市民活動サポートセンターにて行われた『たがさぽのクリスマス雑貨市』に参加しました。多賀城市国際交流協会の方とフェアトレード商品の販売を中心に、フェアトレードについての説明や、語学研究部の活動などを書いたポスターも展示して活動の紹介を行いました。この収益金は多賀城市国際交流協会を通じてフィリピンの学校建設支援のために寄付します。

■2年3組 関根愛美（中野中出身）

フェアトレード商品を販売してみて、フェアトレードについて知らない人が多かったことに驚きました。そのため、商品が高値であることを理解してもらうのに時間がかかってしまうことがありました。これからもこのような地域のイベントに参加してフェアトレードを広める活動を続け、少しでも国際貢献していこうと思いました。

トレーニング講習会

12月16日、運動部を対象とした「トレーニング講習会」が本校体育館を会場に行われました。各部が冬季の体づくりに生かせるように、毎年この時期に実施しています。

今年度も株式会社エスアンドエフ・アクティブライフの沼田尚氏を講師にお招きし、「メディカルチェック（ストレッチ）と筋力トレーニング」について教えていただきました。最新のトレーニング事情を交えながら丁寧に教えていただき、参加生徒にとって大変勉強となったようです。トレーニングは継続して行うことで効果が現れますので、各部で工夫しながら取り組んでほしいと思います。

■サッカー部副部長 2年3組 千葉貴広（高崎中出身）

今回のトレーニング講習会では、ストレッチや体幹のトレーニングをご指導いただきました。運動部にとってストレッチや体幹は大切なことであり、継続的に行うことで柔軟さや筋力の向上につながります。そのようなトレーニングの仕方を詳しく学ぶことができ、とても良い経験になりました。また、他の部活と一緒に行うことで、お互い声を掛け合いながら切磋琢磨して頑張れるところもこの講習会の良さだと感じました。このようなトレーニングは精神的にも肉体的にも辛いと感じますが、声を出して頑張れたという講習会の経験を生かして“やりきる”ことを大切に、来春の高総体に向けて冬場のフィジカルトレーニングを頑張りたいと思います。

2学年冬季学習会

12月26日からの3日間、本校大会議室において第2学年冬季学習会を実施しました。この学習会は、いわゆる「3年生0学期」に受験勉強に必要となる長時間学習を体験・実践させ「自学力」の強化を目指して行われたもので、今回は80名以上の生徒が参加しました。朝7時半から夕方7時半まで、自らが立てた学習計画に基づき、90分の自学自習を14コマ、約30時間の学習を通して、時間の使い方や学習内容の見直しなど、これから本格的に始まる受験勉強の足がかりとすることができたようです。

■実施後の生徒の感想

・途中、集中力が切れたりすることもありましたが、周りを見るとみんな真剣に取り組んでいて自分もやらなくてはという気持ちになり、再び取り組むことができました。この流れで勉強の習慣をつけられるように頑張ります。

・今回、学習会に参加して普段からの勉強に対する姿勢が変わったように感じたので、受験に向けて引き続き継続していこうと思いました。

・初日は体力的にかなりきつかったですが、最終日は眠くもならず集中して取り組むことができました。計画通りに進まないことも多々あったので、無理のないプランニングとそれを実行する力を身に付け、受験学年を迎えたいと思います。

・長時間机に向かう習慣づくりができたましたが、もっと内容の濃いものにすることができると思うので、今後は量だけでなく質を改善していきたいです。ある程度まとまった時間で勉強するとより理解が深まり、楽しいことが分かったので良かったです。

・集中して勉強に取り組むことができて良かったです。このような環境を家でもつくり勉強していきたいです。受験を目前にしてのこの機会は自分にとってとても有意義な時間となりました。

生徒会 防災研修報告

12月25日から25日の3日間は神奈川・静岡で、1月6日から7日までの2日間は神戸で、生徒会防災研修を行ってきました。

今回は、生徒自身がまとめたものを記事として掲載します。

生徒会防災研修 in 神奈川・静岡

1日目 湘南学園中学校高等学校交流報告

■2年2組 尾川彩佳（高崎中出身）

神奈川県にある湘南学園中学校高等学校へ行き意見交換をしてきました。

まずは、湘南学園さんの学校紹介をしていただき、色々な活動をしており、学園祭では生徒自ら今までにはない企画をするという伝統があるようで、とても参考になりました。次に、私たちも学校紹介をしましたが、湘南学園さんは、原稿を読まずに発表するなどプレゼン力が高くて驚きました。私たちもあのようにできるようになりたいと思いました。最後には、活発な意見交換ができ、見送りまでしてもらい、とても仲良くなれました。また交流したいと思います。

2日目 常葉大学訪問報告

■2年3組 滝口芽愛理（東仙台中出身）

常葉大学社会環境学部の阿部郁男教授に、津波シミュレーションについて、その仕組みや作成方法を伺ってきました。東南海トラフ地震による津波が心配される静岡県。コンピュータを使ったシミュレーションは津波広域だけでなく、人や火山などに置き換えて作ることができると知り、防災・減災に大いに役立つものだとわかりました。また、私たちも実際に津波シミュレーションを作り、断層の少しのズレの違いによっても大きく被害の範囲が変わることも知ることができました。多賀城のまち並みも、このシミュレーションを使って再現したら、少しは都市型津波からも逃れられるかなと思ったので、今後の参考にしたいです。

3日目 静岡県地震防災センター訪問報告

1年5組 小野寺さくら（しらかし台中）

ここでは、実際に津波がきた時のことを想定したシミュレーションや防災について学びました。津波シアターでは、東日本大震災の時の名取市の映像を見せて頂き、あまりの衝撃に驚きを隠せず、改めて津波の恐ろしさを痛感しました。地震の体験ができる「地震ザブトン」では、高層ビルの上層階や熊本地震の揺れを体験することができ、揺れ方に違いがあることがわかりました。また、防災アドバイザーの方に防災、耐震についての実践的なお話を聞くことができました。地震や津波について多くのことを学ぶことができ、とても参考になりました。

貴重な時間をいただきありがとうございました！

生徒会防災研修 in 神戸

■2年2組 清野寧音（高崎中出身）

■2年7組 大場有紗（西山中出身）

1月6日・7日の2日間、生徒会執行部2名が神戸に防災・減災学習に行ってきました。

1日目は、兵庫県立芦屋高等学校との生徒会交流、2日目は、認定特定非営利活動法人まち・コミュニケーションへの訪問、ぼうさい甲子園の参加というプログラムで、防災・減災について多くのことを学んできました。

○兵庫県立芦屋高等学校交流報告

今回の交流では、芦屋高校さんが作成している「災害時避難シミュレーション」について詳しくお話を聞くことができました。実際に市内を歩いて道路の高低差や段差まで記録したという話には驚きました。私たちが作成するなら、波高標識を設置した地域を基に作成し、まち歩きでうまく利用していきたいです。そして、芦屋高校さんが企画した、全国高校防災ネットワークを活用し、これからも継続した交流を行いたいです。

○認定特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション訪問報告

今年は学校の課題研究の一環として行かせていただき、代表の宮定さんと田中さんから昨年とはまた違うお話を聞かせていただきました。「復興住宅のボランティア」を行う上の心構えについて話していく中で、最も心に残ったのは、「ボランティア」は与えられた目的を達成するだけでなく、対象の方々との交流の場でもあるということです。例えば、家の掃除のボランティアでも何か会話をしながら行うことで、被災者の気持ちの軽減であったり、笑顔にすることができるのではないでしょうか。復興や人の気持ちについて深く考える良い機会になりました。

○ぼうさい甲子園報告

2年間ぼうさい甲子園に参加してみて、2年連続での受賞校が多いなと感じました。その受賞校は昨年と同じ活動ではなくまた新たに取り組んでいることがあったり、内容をさらに深いものにして地域全体で取り組んでいたりと本校の活動の参考になるものばかりでした。発表方法も様々で、最も驚かされたのは劇でした。見る人に興味を持ってもらう発表の仕方は、今後の活動の参考にしていきたいと思っています。

災害科学科1年 北海道滝川高校SSH道外研修 東北コース合同実習

1月5日から4日間、北海道滝川高校の生徒10名が、環境学習プログラム「SSH道外研修東北コース」のため、宮城県を訪れました。この研修の3日目である1月7日に、本校災害科学科1年有志4名（うち科学部2名）、気仙沼高校の生徒5名が一緒に参加しました。

この日の研修は、法人・森は海の恋人舞根森里海研究所における環境学習と、唐桑半島ビジターセンターにおけるフィールド実習です。森は海の恋人舞根森里海研究所では、海上に浮かぶカキ養殖筏での実習や、陸上施設での生物観察を行いました。この実習を通して、東日本大震災の被害を受けた気仙沼の自然は、数多くの生物が確認できるまでに回復したことが分りました。

午後の唐桑半島ビジターセンターにおける実習では、東日本大震災の津波によって巨岩が移動した“津波石”の観察や、明治津波の教訓で築いたと伝わる“土塁”の観察を行いました。

■大江透真（1年7組 幸町中出身）

極寒の海で船に揺られて渡ったカキの筏でのお話しや、付着生物の観察、唐桑半島でのフィールドワークなど、心身共にとても充実した1日となりました。

今回の研修を終えて学んだことは、1人の気持ちが多くの人達を揺り動かすということです。畠山さんの海に対する愛が、勇気ある行動の原動力となり、自らの持つ疑問を解決しようと試みたその姿に脱帽しました。畠山さんが海の環境改善のために植樹を始めたように、私達高校生も震災からの復興に向けて、そして将来のためにそれぞれが動き出さなければならないと感じました。

カキ養殖筏でのプランクトン採集

3月1日(木)卒業式
学校からのお願いです

新講義棟建設および武道場改修工事のため、駐車場の確保ができません。一般の保護者の方々は公共交通機関をご利用いただきますよう、ご協力をお願いいたします。